

海外展開戦略(医療)

概要

平成30年6月

海外展開戦略(医療)概要 1/3

- ・ 医療市場(医療支出額)は世界で市場規模が拡大。米国が突出して高く、近年は**アジア諸国の成長が著しい**。(図1)
- ・ 世界の大規模病院は海外展開に積極的。他方、日本の上位3団体は主に**国内で活動**。(図2)
- ・ **アジアの疾病構造は生活習慣病を含む非感染症が増加**、アフリカと欧州の中間的な位置づけ。(図3)

図1: 国別医療支出(公的支出+私的支出)の例

国名	2014支出額(10億ドル)	2005-2014平均成長率(%)
米国	2987.3	4.6
中国	583.8	20.8
日本	471.0	2.6
ドイツ	441.0	4.4
フランス	318.4	3.6
インドネシア	25.3	17.6
フィリピン	13.5	17.6
ベトナム	13.1	17.2

図2: 世界の大規模医療事業体と海外展開の状況の例

	医療団体名	売上(円)	従業員数(人)	設立国	主な医療拠点(病院、クリニック等)
北米	United Health Group Inc	11.8兆	15.6万	米国	米国、ブラジル
	Hospital Corporation of America	3.5兆	21.5万	米国	米国、英国
欧州	Fresenius Medical Care AG&Co	2.7兆	17.8万	英国	北米、ヨーロッパ、アジア太平洋、ラテンアメリカ
	BUPA Limited	1.3兆	7万	ドイツ	オーストラリア、ニュージーランド、英国、スペイン、ラテンアメリカ
アジア	Apollo Hospitals Enterprise Limited	0.05兆	3.5万	インド	インド、バングラデシュ、オマーン
	(一財)日本赤十字社	1.2兆	6.8万	日本	日本
	(独)国立病院機構	1.0兆	6.2万	日本	日本
	(社福)恩賜財団済生会	0.6兆	5.9万	日本	日本

図3: アフリカ、アジア、欧州における死亡理由(10万人あたり)

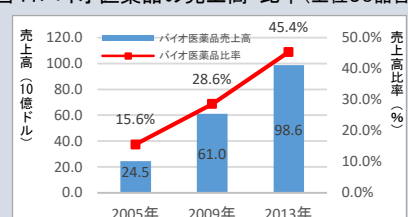
アフリカ: 2015年	アジア: 2015年	欧州: 2015年
下気道感染症 101.8	虚血性心疾患 104.0	虚血性心疾患 266.9
HIV/エイズ 76.8	脳卒中 70.2	脳卒中 125.1
下病性疾患 65.0	慢性閉塞性肺疾患 58.4	認知症 46.1
脳卒中 45.6	下気道感染症 43.5	がん(気管・気管支・肺) 45.4
虚血性心疾患 44.5	結核 36.0	慢性閉塞性肺疾患 36.8

- ・ 市場規模は世界で拡大。日本は微増(成長率:3.4%※)、**アジア(日本を除く)・太平洋の増加が顕著(成長率7.8%※)**。
- ・ 海外比率の高い企業は売上・営業利益が高い。日本は独自技術でのニッチ市場進出、千億円未満の企業が多い。

※2015年-2020年の年平均成長率

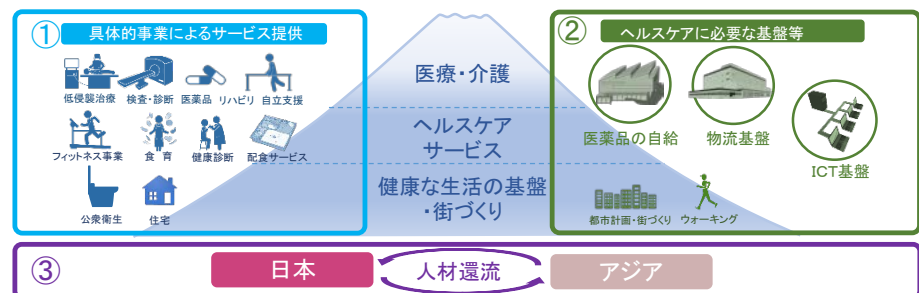
- ・ 世界市場は拡大(成長率:2.7%※)、**アジア市場の増加が顕著(成長率:7.9%※)**。
- ・ 上位50品目に占める**バイオ医薬品比率は10年間で約3倍に**。(図4) ※2011年-2015年の年平均成長率
 - ⇒ 多くの大型バイオ医薬品が特許切れを迎えるため、バイオ医薬品の後発品である、「**バイオシミラー**」の市場が急成長する見込み。
 - ⇒ バイオ医薬品は複雑な分子構造を持ち、細胞の培養を通じ製造するため高度な開発・製造能力が必要。**バイオシミラーも新規の場合と同等の能力、コストが必要**。

図4: バイオ医薬品の売上高・比率(上位50品目)



- ・ SDGsの目標3である、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成」を視野に入れつつ、「**アジア健康構想**」を提案。
- ・ **裾野の広いヘルスケアをアジアで振興**。予防や健康な生活の充実により可能な限り**医療・介護を最小限に**。
- ・ 医薬品、医療機器、研究開発能力等、アジアにおける**医療の自律的な自給自足体制を構築**。

図5: アジア健康構想における戦略的アプローチ



相手国と日本の状況を勘案しつつ、次の3種類のアプローチを検討(図5)

- ① 医療・介護サービスを事業として具体的に展開
- ② 相手国の医療・介護の自給自足に繋がる基盤構築へのコミットメント
- ③ 教育・研修を通じた人材育成

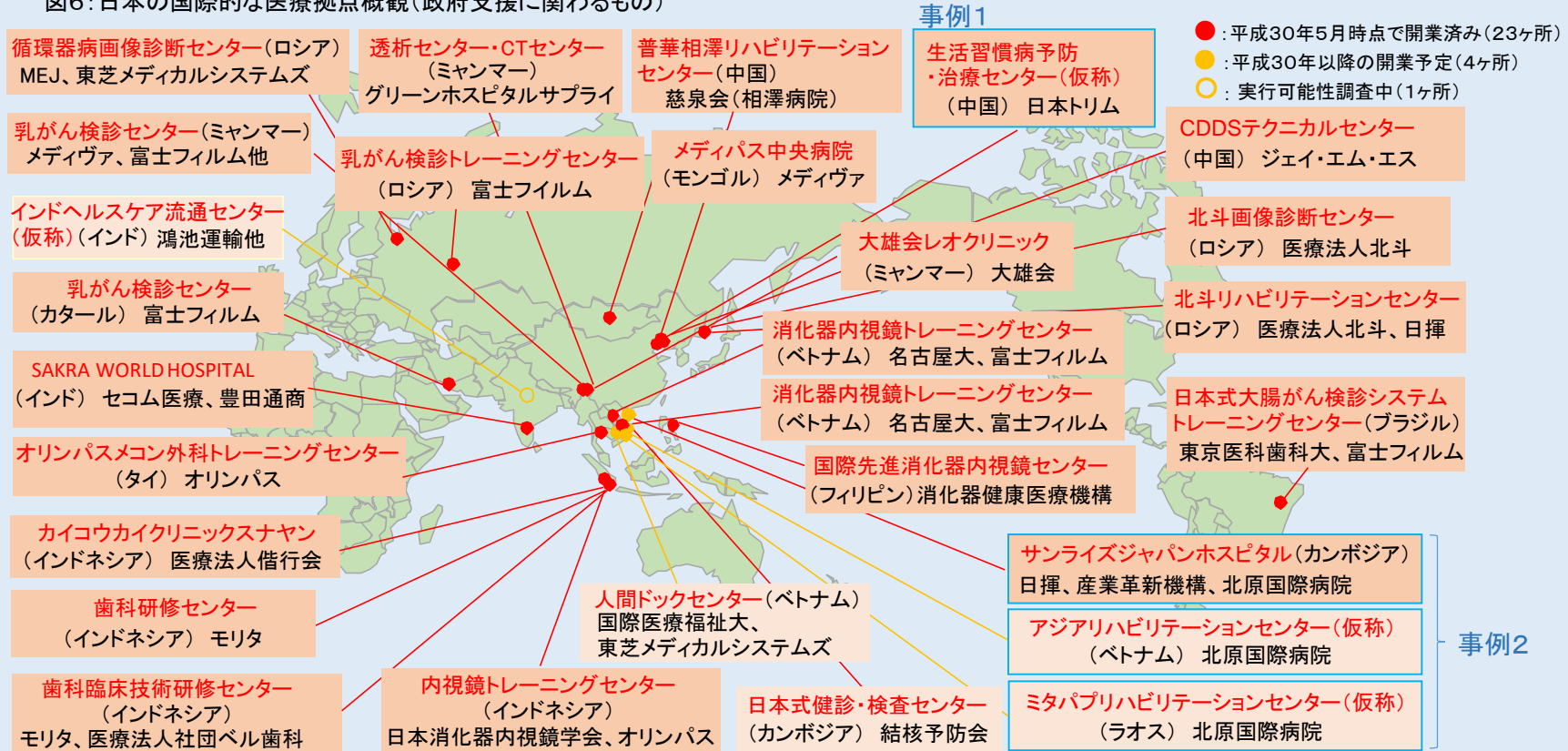
戦略

アジア健康構想の提唱

海外展開戦略(医療)概要 2/3

- 日本の医療拠点はアジアを中心に平成30年5月時点で27ヶ所が開業(4ヶ所開業予定を含む)。

図6: 日本の国際的な医療拠点概観(政府支援に関わるもの)



※アゼルバイジャンにおける後発医薬品工場建設は現在保留中であり、一般用医薬品(OTC薬)の流通拠点設立等も検討中。

事例1: 北京漢琨(ハンクン)病院【日本トリム等】

※中国基準による分類

- 糖尿病・透析・リハビリを中心とした慢性疾患治療の二級病院※。
- 低炭水化物食(中国料理)の提供・配食サービスや日本の健康食品、スキンケア商品等の販売等、医療とヘルスケア産業とを一体的に展開。



透析ベッド

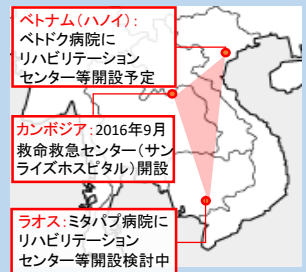
浄水設備

リハビリ設備

100gあたり糖質4g以下の魚の煮付

事例2: 国際リハビリテーションセンター【北原国際病院】

- カンボジア・ベトナム・ラオスに医療拠点を設置。
- 複数国への面的展開で医療資源の分散配置を可能とし、経営・サービスを安定化。
- カンボジアで2016年救命救命センターを開業。ベトナムに日本式リハビリセンターを開設中、今後救命救命センター、教育期間を構想。今後、ラオスミタパブ病院においてもリハビリ及び救急病院を展開。



海外展開戦略(医療)概要 3/3

- ・ **アジアでは医療市場が拡大**しているが、医薬品を自給自足するための研究・開発、承認審査、製造・流通、適正使用等の基盤が十分でなく、日本企業の成長には、**アジアの医薬品の自給自足という互恵的なテーマを掲げつつアジア展開を目指す**ことが求められる。

戦略② 基盤の構築 医薬品の自給、物流基盤、ICT基盤

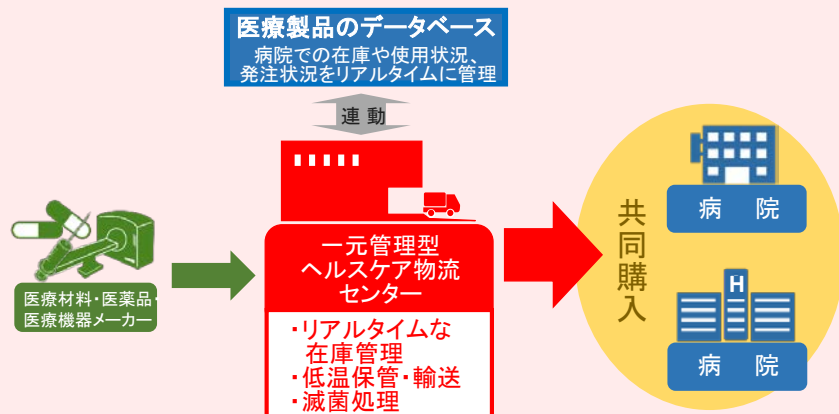
アジアの役割

- 高度な製造技術が求められ、市場の成長が見込める**バイオシミラー**を製造しアジアへ供給。
- アジアの医療の潜在力を高められるよう、**効率的な物流基盤**を構築(ロジスティックスの確立)を支援。バイオ医薬品を含め常時1000種類以上の医薬品の使用がアジアで可能にする。

- 製造が容易な**ジェネリック医薬品**を製造(日本企業もコミット)し、品質が担保された医薬品を低コストで日本に輸出。
- 物流基盤を構築したうえで、**医療データに基づいた日本との共同研究**等を目的に、先ず**検体検査のシステム**を構築。アジアでも医療データを収集し分析する共通基盤を構築し良質なデータの「畑」を育てる。

図7: 次世代一元管理型ヘルスケア物流センター

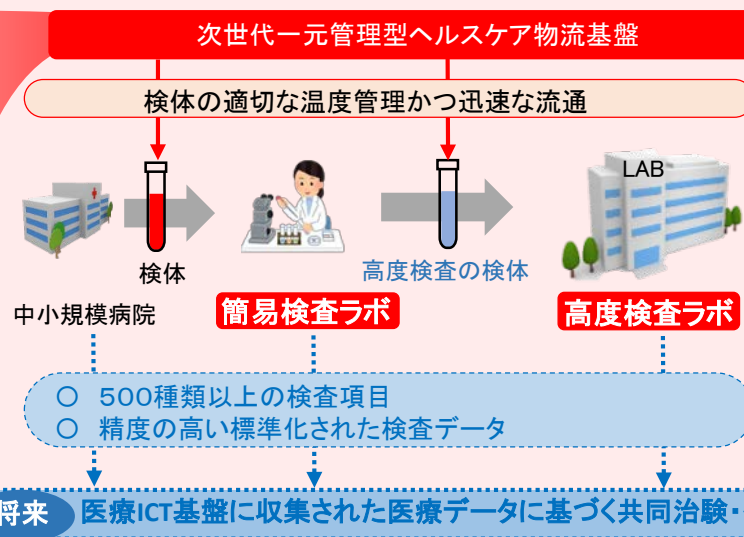
次世代一元管理型ヘルスケア物流基盤イメージ



- 流通の効率化及び共同購入により、低価格での購入を実現。
- ICTの活用等により、トレーサビリティを確保し、偽薬・盗難を防止。
- 低温保管・輸送により、1000種類以上の医薬品の使用を実現。
- 滅菌処理により、侵襲的治療のための医療機器(大腸内視鏡等)を普及。等

図8: 医療ICT活用のための基盤

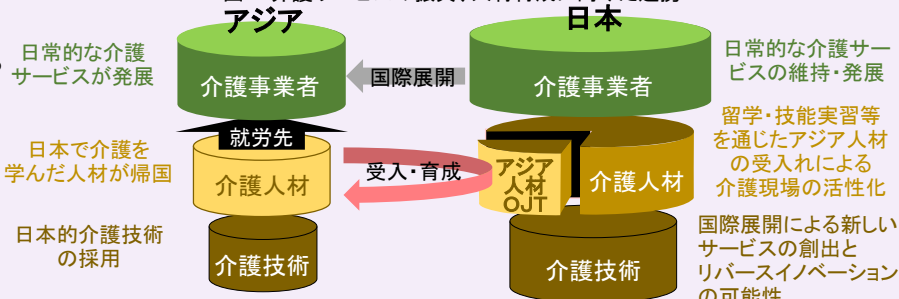
医療ICT利活用のための基盤イメージ



- ・ **アジアと我が国が一体となり高齢化に対応する新たな協力関係を構築、相互互恵的にそれぞれの課題を克服。**

- STEP1 日本の介護事業者の国際展開により、現地に**介護産業を振興**し、日本で学んだ人材の帰国後の**受皿を創出**。
- STEP2 アジア人材の積極的な受け入れにより、**国内の介護現場の活性化**に繋げつつ、**アジアに必要な介護人材を育成**。
- STEP3 日本の介護事業者はアジア現地のニーズを捉えた新しいサービスを創出、**リバースイノベーション**を生み出す。

図9: 介護サービスの振興、人材育成に向けた連携



戦略③ 人材交流

戦略③ 人材交流